

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～注目される世界の金融市場動向を分析し先行きを見通します。

2009/12/24 「2010年の市場見通し ―為替― ～円安ドル高は2010年春までにピークアウト、再びドルの低下余地を探る展開へ～」

2009/12/21 「2010年の市場見通し ―金利― ～2010年春までにピークアウト、再び低下余地を探る展開へ～」

掲載カテゴリ：寫峰義清の「マーケットウォッチング」

～日本経済の課題を最新の日銀短観と日銀のスタンスから読み解きます。

2009/12/18 「物価安定『ゼロ%以下は許容していない』～政府との共通認識を確認～」

2009/12/14 「12月短観・大企業製造は+9ポイント改善～加工業種の輸出数量により収益改善～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～統計を駆使してわが国の雇用、賃金の実態に迫ります。

2009/12/7 「統計から見た悪化する雇用と賃金 ～潜在失業率は11.8%まで上昇し、名目賃金は19年前の水準まで低下～」

掲載カテゴリ：永濱利廣の「エコノミック・フォーカス」

～注目される海外経済の動向とこれからの課題を分析します。

2009/12/16 「中東欧・バルト諸国の危機は去ったのか？ ～危機の火種は消えていない～」

2009/12/15 「中国経済事情：景気は堅調ながら跛行色は残る ～インフレ圧力は依然低い、過剰生産と資産バブル発生への対応が今後の課題～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

編集後記

カジュアル系アパレルチェーンなどの低価格攻勢はデフレを助長しているのかどうか、という議論がある。これら人気店が価格に敏感な消費者の気持ちをつかんだことは確からしい。しかし、勝ち組企業は必ずしもライバルより値段が安いことを標榜しているわけではない。しかも、これら企業は高水準の利益をあげ続けている。事業の背景を考えると、低迷する不動産（賃貸）市況と雇用情勢の悪化、さらに円高を逆手にとり、出店場所を選んで大勢の若い従業員をフル稼働できたことに行き着く。つまり、彼らの強みはどちらかというところ「差別化（お値打ち感）」によって店舗をお客で埋められる集客力だといえそうだ。

同業者が結託して値下げを見合わせたり、逆にコスト割れで売りさばいたりしても経済にとって良い結果は招かなかつたろう。とはいえ、一方でこの成功事例を日本全体が見習って景気を浮揚させようという「全員勝ち組シナリオ」も実現するとは思えない。デフレ脱却のためには、やはり経済全体のパイが拡大し、今起きているような設備や雇用の切り詰めがなくなることを目指さなければならない。

これら雇用と生産設備は日本国内の需要とともに、成長する海外需要にも向けられてきた。外需依存がデフレを生むという意見もあるが、むしろ問題は競争条件であろう。ここでも「価格」（生産性向上・妥当な為替水準・競争力ある税率、制度）と「差別化」（商品開発力・貿易障壁の除去）が結果を左右する。単なる値引きによる輸出なら賃金の抑制は続く。政策ではこの点に十分配慮がなされているだろうか。（H. U）